

# 留学報告書

工学院情報通信系

森田隼人

私は、日本語の通じない環境に長い間身を置くことで、英語力が身につくのではないかと思い、この台湾科技サマープログラムに参加しました。結果としてはあまり英語力は身につきませんでした。代わりに様々な貴重な経験や知見を得ることが出来ました。

まず、何故英語力をそれほど身につけることが出来なかったのかについて話していきます。

第一に、台湾の公用語は中国語であったからです。電車や街で聞こえる会話や看板やメニューに書かれている文字は中国語であるため、町中で英語に触れる機会があまりありませんでした。もし、これらが英語だったら街を歩いているだけで英語の勉強が出来たと思います。やはり、英語を身に着ける為に留学をするなら、高いお金を払ってでも英語圏に行くべきだと思いました。

第二に、サマープログラムで日本人同士で固まって行動してしまったからです。これでは外国に来た意味がないと思いながらも、言葉を通わせるのが難しい外国人よりもついつい日本人同士で話してしまうものです。本気で留学で英語を学びたいなら、勇気を振り絞って一人で留学するべきだと思いました。

第三に、私はあまり社交的な性格ではなかったからです。ですので、特に伝えたい事がない限り他の人に話しかけるといことはあまりありませんでした。もし、他愛の無い話をするのが得意だったり好きだったりしたなら

ば、たくさん英会話が出来ただろうなと思います。内向的な性格の場合、留学以外の方法で英語力を向上させた方が良くはないかと思いました。

以上、英語をそれほど身に着けられなかった理由を挙げましたが、全くと言って英語を学べなかった訳ではありませんでした。現地の学生との観光やグループワークでの会話や、お店で買い物をする際には英語で話す機会がありました。これらの機会ですれなりに英語力を身に着けられたのではないかと思います。

次に、英語力があまり身につけなかった代わりに得た経験や知見について話したいと思います。

第一に、人は自分の分かる言語が書かれていたり話されていたりしないと、とても困ってしまうという事です。これは、私が台湾という外国に来て初めて実感しました。例えば、飲食店に入って中国語だけで書かれたメニューを見たとき、とても困りました。しかし、同時に人は困る経験をするとき驚くべき学習能力を発揮するという事にも気が付きました。私は、飲食店で何度も現地の学生に教わりながら注文するうちに、いくつかの中国語の単語を自然と覚える事ができました(例えば中国語の「培根」はベーコンであることとか)。

第二に、文法が間違っている場合でも英語は伝わるという事です。日本で英語のテストを受ける際には時制や複数形など、そういう事に殆どの注意を払って英語を使っていました。ところが、実際に外国人と話すときそういう事まで気が回らず、単語だけで話すのが精一杯でした。が、それでも大体の意味は通じてしまいました。ビジネスや学術の場で話す際にはキチンとした文法の英語を話さなければなりません、それ以外の場ではこういう話し方もあるのではないかと思いました。

この台湾サマープログラムで英語力を大幅に向上させる事は出来ませんでした。が、代わりに様々な貴重な経験や知見を得ることが出来たので、このプログラムに参加できて良かったと思います。